

四国大学大学院 看護学研究科

看護学専攻

より創造的な高度専門職業人の
育成を目指して



▶ 研究科長挨拶

本研究科は、急激に変化しつつある看護の現場において、看護をより創造的に実践できる高度専門職業人の育成を目指しています。日々の看護実践においては様々な課題意識が芽生えると思います。その時に再度時間をかけ学術的に振り返りをすることがキャリアアップにつながります。ぜひ一緒に学修しましょう。

看護学研究科長 武田 道子



▶ 大学院ってどんなところ？

論理的・探究的思考を持ち、 創造的な高度専門看護実践者の育成

看護学研究科では生命や人権を尊重し、看護とは何かの問いに応え得る根拠に基づいた科学的・系統的な看護実践ができ、かつ、スタッフへの指導・助言や多職種から構成されるチーム医療において看護の立場からの発言や対象者の代弁ができる高度専門職業人としての看護実践者育成を目指します。

これまで臨床で働いていて、
自分の『壁』を感じたことはありませんか？
臨床で培った実践知に加えて、
体系的な理論を学び
自分の『壁』を乗り越えましょう。



▶ 看護学研究科(修士課程)の概要

● 授与される学位…修士(看護学)

学べる8領域と教員紹介

Check!!

生活支援看護分野

●地域看護学領域

武田 道子 教授

金山三恵子 准教授

鈴木 智子 准教授

「地域看護学」は看護職に共通して求められる知識や能力であり、人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築を探究する学問です。人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与することを目的とします。多様な場で生活し、様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活上の課題を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働する看護を研究します。

●高齢者看護学領域

田村 綾子 教授

多様な生活の場で暮らす高齢者とその家族を総合的に捉えるための理論を学び、高齢者のQOLの向上を目指した看護ケアを実現するための課題を考え、研究します。

臨床看護実践開発分野

●成人看護学領域

田村 綾子 教授

檀原いづみ 教授

中川 秀幸 教授

山口 豪 准教授

急性期や回復期、慢性期およびターミナル期にある健康に障害を持った対象者および家族を理解するための理論を学び、侵襲の高い治療や長期的なセルフケア支援、緩和ケアなど臨床看護実践の課題を考え研究します。また、急性期、回復期並びに慢性期の対象者における薬物療法の課題を考え研究します。

●小児看護学領域

小川 佳代 教授

子どもとその家族へのケアの在り方について、研究的に考える領域です。病院や施設において、子どもたちの成長発達や健康上の様々な問題への対応について、質の高い看護実践を行うために、子どもとその家族に関する理論を学び、ケアのエビデンスを考え、子どもと家族のニーズに沿って適切に対応できるための支援について研究します。また、教育的視点で子どもたちにどう関わったらよいかや、臨地実習学生指導の工夫についても考え、研究します。

●看護管理学領域

稲田久美子 教授

池田恵美子 准教授

質の高い看護実践を実現する看護管理に必要な理論(組織論、リーダーシップ論など)を学び、組織をマネジメントし、リーダーシップをとりながら変革していけるための課題を考え研究します。

●母性看護学領域

榮 玲子 教授

ライフサイクル各期における女性・母子とその家族への健康支援、看護援助など、看護学の視点から、課題・問題を明確にし、健康支援及び看護方法を研究します。

●精神看護学領域

磯谷 俊明 教授

藤森 由子 准教授

多様な場で生活し、多様な精神的健康レベルにある人々を理解するための理論を学び、その人らしい生活の実現を支えるための看護実践の課題を考え、研究します。

助産学分野

●助産学領域

池内 和代 教授

高橋 順子 教授

「助産学分野」には助産師国家試験受験資格を取得するコースを設け、周産期の様々な課題に対処できる高度な実践力と、課題を考え探究できる助産師を育成します。

カリキュラム

共通科目

全領域の院生と一緒に学ぶ科目です。

必修

■看護研究方法論



選択

- 看護理論
- 看護倫理
- 看護教育論
- 看護情報論
- 看護ヘルスアセスメント
- 地域のヘルスサイエンス
- 身体機能・病態学

7科目の中から5科目選択

専門科目

専門領域別に担当教授から学ぶ科目です。

- 各領域の特論
- 各領域の演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲ

助産師育成コース

- 助産学・特論Ⅰ～Ⅶ
- 助産学演習Ⅰ～Ⅳ
- 助産学実践演習Ⅰ～Ⅶ
- 助産学実習Ⅰ～Ⅴ

特別研究

各指導教授から
指導を受けながら研究し、
修士論文にまとめる。

ゼミナール形式 授業

働きながら
学べます

授業は一方的に講義を聞く形式ではなく、
院生自ら調べ、プレゼンし、参加者全員でディス
カッションするゼミ方式です。



夜間・休日開講

働きながら学べるよう、授業は主に夜間にあり休日も開講しています。1年次は
週に2～3日程度です。2年次は特別研究がメインで、1～2週間に1回程度の
通学になります。※助産師育成コースは昼間の開講科目があります。

長期履修制度の 採用

修士は2年間の課程ですが、2年間の学費で3年間かけて修了することもでき
ます。

取得可能な資格

- 認定看護管理者認定審査受験資格（※詳細は日本看護協会ホームページ参照）
- 助産師国家試験受験資格

▶ 修了生の声

吉野川医療センター 7階西病棟 看護師長

尾田 由香

●平成28年度 修了生●

私は、吉野川医療センターで看護師長をしています。看護管理者として、効果的に看護の質を向上させる方法はないか、その答えを求め大学院へ進学しました。授業を通じて、成果目標を達成に導くには、経験による知識に加え、統計的評価、看護理論などの根拠を融合して的確な質評価を行う必要性を学びました。また、看護実践の現場で、倫理を熟思する風土づくりの重要性を学びました。

現在は、修士修了に伴い受験資格を得た認定看護管理者に合格し、病院全体の看護組織の活性化に取り組んでいます。大学院で学んだ知識は私の宝となっています。

四国大学看護学部看護学科

横関恵美子

●平成28年度 修了生●

小児救急看護認定看護師として、医療的ケアが必要な重症児と家族への看護を実践してきました。その中で、制度や社会資源は拡充されつつありますが、家族の抱える困難感が変わらないのは何故かという疑問を明らかにしたいと考え修士課程へ進学し、そこで、まず研究方法について学びました。この研究結果から、家族の困難感の要因のひとつには、我が子である重症児の微細な反応を理解できないことであるとわかりました。現在は、修士課程での研究をもとに重症児の微細な反応を理解できる支援のための具体的な方法を社会実現するために、経営情報学研究科博士後期課程で研究を続けています。

木戸みどり

●助産学領域 2回生●

入学して早1年が過ぎました。私自身妊娠中、産婦人科病棟に配属となり看護師としてどのように接したらよいのか自分自身悩むことが沢山ありました。そこで助産師を目指しもう一度大学院で深く学修したいと考え、今に至っています。

大学院では、様々な環境の方々と授業を受け、ディスカッションをする中で、自分自身の視野が広がり、人間として少しずつ成長しているように思います。紆余曲折ありますが、同級生たちと励まし合いながら助産師になるべく、精一杯努力していきたいと思っています。

北島美和子

●看護管理学領域 2回生●

仕事と大学院の両立はとても不安でしたが、入学してから不安の大きさより学ぶことの楽しさのほうが多かったように思います。授業はプレゼンテーションやディスカッションがメインとなっており、通常の受け身の研修とは違った学びがありました。また、年齢や職場も違う看護師、先生方と関わることで、新たな看護観も知る事ができました。看護師を30年続けてきて今更何を学ぶのかと思ったこともありましたが、まだまだ知らないことはたくさんあり、学びは一生必要であると実感しています。残り1年、仲間と頑張っていきたいと思っています。

▶ 在学生の声

岸 葉子

●成人看護学領域 2回生●

看護師として日々の業務に携わる中、人に伝える難しさや知識不足に気づき、大学院修士課程に入学しました。看護学研究科では、他領域の院生とのディスカッションを通して、多様な価値観や考え方に触れ視野が広がりました。恩師や先輩方との出会いを通して自分の世界が広がり、働きながら臨床実践の課題を追求し学べる醍醐味を体感しています。学ぶことの大変さもありますが、仲間の温かさや新たなことを知る喜びも感じています。修士論文に向けての研究は、不安ですが同級生と支えあいながら歩んで行きたいと思っています。



▶ 令和3年度入学試験

出願資格

社会人

- ① **大学を卒業した方**で、看護職として1年以上の実務経験のある方
 - ② **大学を卒業していない方**で、看護職として3年以上の実務経験があり、本学大学院看護学研究科の個別の入学資格審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると認められた方
- ※②の方は、出願前に、個別入学資格審査が必要ですのでご相談ください。

社会人

■書類審査 ■小論文(800字以内) ■面接

一般

■書類審査 ■小論文(800字以内)
■筆記試験(英語) ■面接

選考方法

一般

- ① 国内の看護系大学を卒業した方
- ② 国内の看護系大学を令和3年3月卒業見込みの方

	出願期間	試験日
I期	令和2年6月15日(月)～ 令和2年7月6日(月)	令和2年 7月18日(土)
II期	令和2年11月2日(月)～ 令和2年12月3日(木)	令和2年 12月12日(土)
III期	令和3年2月24日(水)～ 令和3年3月15日(月)	令和3年 3月20日(土・祝)

▶ 学費等

● 本学と連携協力をしている施設の方 ●

入学金

20万円

学 費

年間54万円

本学と連携協力に関する協定書を交わしている施設(看護学部実習施設など)の方の入学金は**全額免除**、**学費は半額**にしております。新たに協定書を交わすこともできますので、受験前にご相談ください。

資料請求は

四国大学 広報課

☎ 0120-65-9906 FAX 088-665-9907
<https://www.shikoku-u.ac.jp/request/>

看護学研究科

お問い合わせ先 ● 武田 TEL 088-665-9233

E-mail takeda-m@shikoku-u.ac.jp

人が集まる「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

〒771-1192
徳島市応神町古川字戎子野123-1
TEL 088-665-1300
FAX 088-665-8037
<https://www.shikoku-u.ac.jp/>

